

GIS A NEWS LETTER

地理情報システム学会ニュースレター 第89号

発行日 ● 2014年3月25日
発行 ● 地理情報システム学会

目次

Web大会の開催について	1p
2014年度 GISA学会賞募集	1p
学会からのお知らせ	2p
委員会報告	2p

支部報告	3p
分科会報告	3p
学会後援行事等のお知らせ	5p
事務局からのお知らせ	5p

【Web 大会の開催について】

厳 網林

台風 27 号接近により第 22 回学術研究発表大会は中止になりました。そのため、2013 年 12 月 1 日～2014 年 1 月 31 日まで、Web 大会を開催しました。第 22 回学術研究発表大会の発表者が学会 Web サイトにて発表用のパワーポイントファイル、もしくは PDF ファイルをご用意頂き、講演に代えて研究発表の場としました。その結果、講演発表参加者は 52 名、ポスター発表参加者は 12 名ありました。学会賞委員会による厳正な

選考の結果、以下の通り、Web 大会優秀発表者 5 名、同優秀ポスター発表賞 1 名、共に 2 割の採択率で授賞者を選出しました。（敬称略/発表番号順）

Web 大会優秀発表賞：

- ・小澤 誠明（慶應義塾大学）
- ・村上 彩夏（東京工業大学）
- ・田中 あずさ（東京工業大学）
- ・小川 芳樹（東京大学）
- ・廣川 典昭（東京工業大学）

Web 大会優秀ポスター発表賞：

- ・西尾 尚子（首都大学東京）

（写真は Web 大会優秀ポスター発表賞作品）

【2014 年度 GISA 学会賞募集】

学会賞委員会委員長 関根 智子

2014年度地理情報システム学会賞の募集を行います。

応募資格者および提出物の内容、受賞者選考・決定方法は以下のホームページでご確認ください。

<http://www.gisa-japan.org/awards/index.html>

自薦、他薦を問わず、たくさんのご応募をお待ちしております。

選考結果は9月末日までに応募者各位にご連絡いたします。

また、受賞者は、本年11月7日（金）～8日（土）に中部大学春日井キャンパスにて開催される第23回研究発表大会で表彰されます。

募集部門：

- 「研究奨励部門」（本年3月末日の時点で35歳以下の者）
- 「学術論文部門」
- 「ソフトウェア・データ部門」
- 「教育部門」
- 「著作部門」

応募期限：2014年7月15日（火）

提出先： 地理情報システム学会事務局



【学会からのお知らせ】

■ 2014 年度一般社団法人地理情報システム学会 定時社員総会のご案内

社員総会で議決権を有するのは代議員の方のみですが、他の正会員の方も出席し意見を述べることができます。

日時：2014 年 5 月 31 日（土）14：30～16：00（予定）

場所：東京大学工学部 14 号館 1 階 143 番教室
東京都文京区本郷 7-3-1

■ 第 4 回理事および監事選挙について

2013 年 12 月 27 日から 2014 年 1 月 20 日にかけて郵送で投票が行われる予定であった理事および監事選挙（有権者は代議員のみ）ですが、年末から年始にかけての料金後納郵便の配達事情が著しく悪く、有権者への到着が 1 月 10 日以降となっていました。

このため、古谷知之選挙管理委員長の判断の下、投票締め切りを 24 日まで延長しての選挙となりました。

1 月 31 日の開票により既に次期理事および監事は内定しておりますが、正式決定は上記総会となります。

■ 2014 年度学術研究発表大会のご案内 《予定》

2014 年度地理情報システム学会研究発表大会は、11 月 7 日（金）、8 日（土）の両日、中部大学（春日井キャンパス）にて開催されます。

発表申し込みの手続き方法など詳細は、決まり次第、メールニュースや HP でご案内いたします。

（発表申込スケジュール：予定）

アブストラクト提出：

7 月 1 日（火）～7 月 15 日（火）正午必着

講演論文集用原稿提出：

論文データ 7 月 1 日（火）～8 月 31 日（日）正午必着

論文（紙） 7 月 1 日（火）～8 月 31 日（日）当日消印有効

■ 日本地球惑星科学連合 2014 年大会のご案内

地理情報システム学会の加盟する日本地球惑星科学連合の大会が、4 月から 5 月にかけて開催されます。当学会が運営するセッションは以下のとおりです。

- (1) GIS（英語）
- (2) 地理情報システム（日本語）
- (3) 人間環境と災害リスク（共催/日本語）

他にも地理学、地図学、測量学などを対象とした GIS と関連が深いセッションも開催されます。

会期：2014 年 4 月 28 日（月）～5 月 2 日（金）

会場：パシフィコ横浜（横浜市西区みなとみらい 1-1-1）

事前参加登録（当日登録より割安）：

～2014 年 4 月 16 日（水）17：00

URL：<http://www.jpogu.org/meeting/>

■ INQUA（国際第四紀学連合）2015 名古屋大会のご案内

国際第四紀学連合（INQUA）の第 19 回大会が、来年、名古屋で開催されます。アジアで 2 回目、日本で初めての開催です。

大会期間：2015 年 7 月 27 日（月）～8 月 2 日（日）

会場：名古屋国際会議場

4 年に 1 回開催される大会では、現在を含めた過去 260 万年間の第四紀に関する幅広い分野の研究発表が行われ、1000 名を超える参加が見込まれています。

《 今後のスケジュール 》

2014 年 7 月：登録、発表、巡検の申し込み開始

2014 年 12 月 20 日（土）：

口頭・ポスター発表の申込締め切り

2015 年 2 月 28 日（土）：早期登録締め切り

詳しくは… <http://inqua2015.jp/>

【委員会報告】

■ 「2013 年度 初等中等教育における GIS を活用した授業に係る優良事例表彰」記念講演会の開催報告と次年度事業の予告

【教育委員会：酒井 高正】

ニューズレター 88 号でお知らせしましたように、第 22 回学術研究発表大会の企画セッションの中で行われる予定だった表彰式が台風のため中止になりました。そのため、2013 年 12 月 15 日（日）に東京大学にて開催された「GISCA 特別シンポジウム」の中で、記念講演として 3 つの賞の受賞者による事例報告が行われました。いずれも大変充実した内容で、報告後には活発な質疑応答が交わされました。

・国土交通大臣賞：田中隆志氏（群馬県立桐生女子高等学校）

・地理情報システム学会賞：河合豊明氏（文教女子大学附属高等学校）および特定非営利活動法人伊能社中

・毎日新聞社賞：北岡武氏（坂井市役所企画情報課）、坂井市立三国南小学校 6 年生 37 名

初等中等教育の発表者の PPT 資料は、GISCA の WEB サイト <http://www.gisa-japan.org/gisca/> 内「GISCA 特別シンポジウム 発表資料の公開」コーナーに掲載されています。



（写真は左から浅見会長、田中氏、河合氏、北岡氏、酒井教育委員長、藤原氏（国土交通省））

【応募資格】

日本国内の初等中等教育現場において、GIS を実践的に活用した授業に取り組んでいる教員等（※）の個人又はグループ。（学会員に限りません。）

※ 教員等：初等中等教育現場における GIS を実践的に活用した授業の取り組みに関わっていれば、教員以外の方も対象となります。

【募集期間】

2014 年 7～8 月頃の予定です。

■ GIS 資格認定協会の活動について

【GISCA 幹事長：太田 守重】

昨年 12 月 15 日（日）に、GISCA 特別シンポジウムを、東京大学本郷キャンパスで開催しました。このシンポジウムには、GISE の皆様を中心に約 80 名の方々が参加しました。今回は GIS 学会の年次大会が中止になったことから、浅見代表の基調講演、自治体 GIS シグのワークショップ、GIS 学会による初等中等教育表彰者の発表、有資格者の発表、更にはパネル討論が行われました。会議の終了後、農学部弥生キャンパス内にあるレストランに場所を移し、懇親会が開催されました。突然の企画であったにもかかわらず、全国各地からご参加いただき、主催者として感謝申し上げます。来年度も続けるべしとの声も多く聞かれましたので、幹事会等で検討したいと考えています。また、来年度は GIS 名誉上級技術者の資格贈与の年ですので、ご協力をお願い致します。なお、2 月 21 日現在の認定件数は以下のとおりです。

GISE：410 名

GISEE：15 名

【支部報告】

■ 東北支部

【阿部 昭博】

「第 2 回東北支部研究交流会」開催報告

東北地方で活動されている地理空間情報に関わる研究者・実務担当者間の情報交換・交流の場を創出することを目的として、平成 25 年 12 月 4 日水曜日、東北大学片平キャンパス 片平北門会館において東北支部研究交流会を開催いたしました。会員を中心に広く話題提供を求めた結果、大学や研究所に所属する 7 名の研究者の方から話題提供をいただきました。道路維持管理に関わる情報システムの開発、空間的な集積検出の分析手法に対する提案、リモートセンシングによる海岸林や農地への震災影響評価、空間統計解析や OR 手法に基づく商業施設立地分析など、地理空間情報に関連する多岐にわたるテーマに関して講演が行われております。当交流会は今回で 2 回目の開催となりますが、初回よりもわずかながら出席者が増加し、20 名余りの会員および関連業界の皆様にご参加いただきました。東北支部は、会員数 60 名程度と小所帯ではございますが、今後も同様の取り組みを通じて会員間の交流を活性化していきたいと考えております。本年も交流会の開催を行う予定でおりますので、是非、参加をご検討いただければ幸いです。なお、イベント情報は、東北支部の Web ページ <https://sites.google.com/site/gisatohoku/home> に掲載い

たしますので、どうぞご確認ください。

■ 関西支部

【吉川 眞】

2013 年 11 月 29 日（金）に薬業年金会館にて、第 13 回の『関西地域 GIS 自治体意見交流会』を開催しました。昨年度に引き続き“関西 G 空間フォーラム”と題する関西地区の GIS 関係団体が一堂に会して開催するフォーラムの一環として、当学会関西支部が主催するものです。産・官・学の総勢 189 名の参加を得ての開催となりました。“合同シンポジウム”として、午前中に行われた国土院近畿地方測量部が主催する第一部『測量技術講演会』に続いて、午後第二部として本交流会、さらに第三部としてパネルディスカッションを実施しました。「G 空間社会における自治体 GIS」をテーマに、吉川眞地理情報システム学会関西支部長による開催の挨拶を筆頭に、京都府の藤本直志氏、奈良県葛城市の芦高由訓氏、京都府宇治市の青木和人氏、そして大阪府 GIS 大縮尺空間データ官民共有化推進協議会支援グループの柏村一保氏、合計 4 名の講師から自治体 GIS 利用の具体的な事例にかんするわかりやすい講演が行われました。パネルディスカッションでは、大阪府富田林市の浅野和仁氏がコーディネータとなり、第一部からも加わっていただいた合計 5 名のパネラにより、G 空間社会における自治体 GIS について、会場を交えて積極的な意見交換が行われました。

ご報告が遅れておりましたが、関西支部が主催しております『GIS 上級技術者教育講座（GIS ブラッシュアップ・セミナー）』は、第 9 回を 2012 年 12 月 15 日（土）に「公共の GIS」をテーマとして実施しました。宇治市の青木和人氏、日本アイ・ビー・エム株式会社の村尾吉章氏の 2 名の講師による講義とその後の意見交換会を 21 名の参加を得て開催しました。さまざまな専門で活躍する専門家による、活発な議論が行われました。

第 10 回を 2013 年 2 月 16 日（土）に「GIS の導入と管理」をテーマとして実施しました。ナカシャクリエイティブの玉置三紀夫氏、奈良県の野田和徳氏の 2 名の講師によって 27 名の参加を得て開催しました。合間にワークショップを 2 回挟む形で実施し、講義内容に対する質疑応答だけでなく、発展的な議論が行われました。

2013 年度に入り第 11 回は 2013 年 7 月 20 日（土）に「求



められる GIS」をテーマとして実施しました。ESRI ジャパン株式会社の中雅明氏、株式会社オーグス総研の松村一保氏の 2 名の講師によって 24 名の参加を得て開催しました。今年度開催を待ちかねていた上級技術者を中心に、活発な議論が行われました。

第 12 回は 2014 年 1 月 18 日（土）に「大規模データを扱う視点」をテーマに、33 名の参加を得て開催しました。ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社の吉川悟氏、大津市の木下克己氏の 2 名の講師による講義と、事務局がコーディネートする「構造化データ・非構造化データ」と題するビッグデータをテーマとしたディスカッションから構成されています。専門家や研究者に、上級技術者をめざす学生諸君も加わった活発な議論が行われました。



【分科会報告】

■自治体分科会セッション

「オープンデータと自治体 GIS」 [浅野和仁]

2013 年度の学会学術研究発表大会の中止により宙に浮いてしまった自治体 SIG 企画セッションの独自開催の可能性を検討していたところ、GISCA 特別シンポジウムの開催を知り、GISCA の太田幹事長に自治体セッションの企画提案を申し出たところ快くお引き受けいただけたおかげで、無事に自治体セッションを実施することができました。ご協力いただきまして皆様に深くお礼申し上げます。

自治体 SIG セッション「オープンデータと自治体 GIS」は、2013 年 12 月 15 日（日曜日）の午前、東京大学本郷キャンパス工学部 14 号館にて以下の通り開催しました。

【話題提供】

「自治体情報を集約するデータセンター構想について」小泉和久

http://www.gisa-japan.org/gisca/download/01_koizumi.pdf

GIS が自治体の中でなかなか普及しない現状について、かつての自治体ホームページの立ち上げと運用の取り組みと比較して、わかりやすく課題と解決方法を説明していただきました。また自治体内部の統合システムと同様に、国、県、市町村のそれぞれの空間データを統合する「データセンター構

想」を提唱され、特に住所辞書の整備による空間データの簡易な生成はオープンデータにつながると話されました。

「自治体と企業の類似と相違について」玉置三紀夫

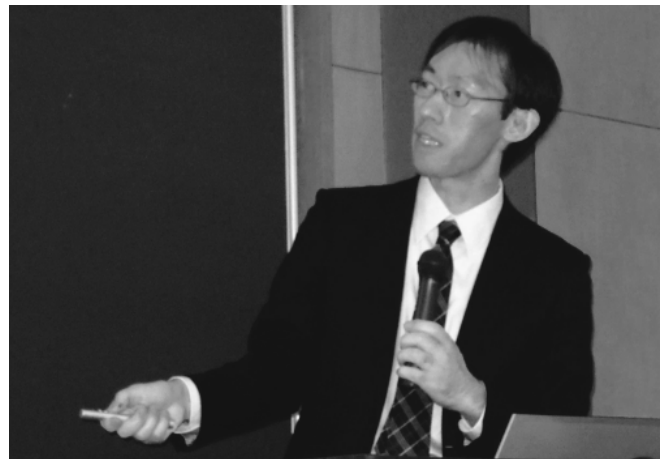
http://www.gisa-japan.org/gisca/download/02_tamaki.pdf

20 年にわたる GIS 営業経験をもとに、経済活動の視点で自治体 GIS の現状と課題についてお話しいただきました。特に入札制度や人事異動などの自治体側の理由による、企業からの継続的支援の困難さの説明については、考えさせられるものがありました。またオープンデータに関しても、個々の自治体の事情により出せるか出せないかを決めるのではなく、共同のデータセンター等に情報を集めて、一定のルールにより標準化と効率化を実現しないと、ビジネスにつながらないと話されました。

「GIS データ等のオープンデータ化に向けた取り組みについて」丸田之人

http://www.gisa-japan.org/gisca/download/03_maruta.pdf

空間データのオープンデータ化で先行している室蘭市の取り組みの経過などを説明いただきました。室蘭市はそもそもオープンデータを目指したのではなく、庁内 GIS の立ち上げと同時に公開用 GIS の立ち上げを検討される中で、資金的な課題から公開用 GIS をあきらめ空間データそのものを提供する道を選択されたとのこと。空間データの公開に際しては、庁内利用データ内部に潜んでいる個人情報（〇〇さんの家の前など）の確認と削除に手間取っているという、そういう課題も話されました。



写真は、ご講演中の「室蘭市の丸田氏」

「FOSS などのオープンソースと行政の今後について」鎌田高造

http://www.gisa-japan.org/gisca/download/04_kamada.pdf

民間では当然に活用している統計データも、行政では擾乱成分を理由に積極的には活用しないという現状があり、そのため公開に関しても責任回避から消極的になりがちになるという行政の現状を説明いただきました。また国土交通大学校では、研修後も引き続き個人で利用できるオープンソフト GIS の操作研修にも取り組まれており、各種統計データ等を活用

できる人材育成に努められているとのこと。空間データを加工、分析できる技術は災害時にも有用な技術であり、何よりも「合法的に楽ができる」技術であると話されました。

【ワークショップ】

自治体 SIG 副代表和田陽一氏をコーディネーターとして「GIS を振り返って見えてきた課題と GIS から見たオープンデータ」について、グループ討論によるワークショップを行いました。

かつて自治体 GIS を推進しようとした時に「自治体の持っている情報を GIS に乗せれば・・・」という話がありました。昨今の「自治体の持っている情報をオープンデータとして・・・」と似ていませんか。このワークショップでは自治体 GIS とオープンデータの類似や共通点、相違点などを参加者の皆さんに考えていただきたく、グループに分かれて討議していただきました。

会場では別途収録した先進自治体職員による座談会のビデオを流し、個人情報や税情報に関する自治体ごとの取扱いの多様性についても知っていただきました。

グループ討議は 4 つの班に分かれて行いました。鯖江市や千葉市など、オープンデータを推進されている自治体の原動力は、自治体の責任者である首長の意向によるところが大きく、そのような自治体においては担当職員の責任が問われない形（首長の方針に従っているだけ）で進められていることに注意すべきとの意見や、案外十分な庁内議論ができていない方が、情報公開が進んでいくという実態があるとの意見もありました。オープンデータを安定的に進めるには、オープンデータに関するルール化やデータセンターのような中間組織が必要ではないかという意見が会場の大勢を占めたのではないかと思います。

なお、このセッションの議事録は GIS 学会ホームページイベント一覧からご覧いただけます。

<http://www.gisa-japan.org/file/20131215jichitai.pdf>

【学会後援行事等のお知らせ】

■後援■ 第 10 回 GIS コミュニティフォーラム

主催：ESRI ジャパンユーザ会

会期：2014 年 5 月 29 日（木）～30 日（金）

会場：東京ミッドタウン

詳しくは… <http://www.esri.jp/events/details/46001/>

【事務局からのお知らせ】

■ 2014 年度年会費納入のお願い

今号は、年会費納入方法が口座振替で無い会員の方々に、2014 年度分（2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日）年会費の郵便振込専用用紙を同封しております。納入期限は 4 月 30 日（水）ですので、お早めにお手続きください。期限に遅れますと、6 月発行のニューズレター 90 号および『GIS-理論と応用 Vol. 22-No. 1』の送付が停止されるほか、ホームページの会員専用コンテンツの閲覧が出来なくなります。

■ 学生会員さんへ 学生証のコピー提出のお願い

4 月以降も学生の方は、新年度の学生証のコピーを事務局までご提出ください。4 月 30 日（水）必着、FAX またはメール添付をお願いします。

期日までの提出が無い場合は、2014 年度より年会費は正会員と同額（口座引落とし 9,000 円、郵便振込 10,000 円）となります。

※コピーは「氏名」「発行者」「有効期限」が分かるように取ってください。

※コピーの余白に「学部生」「修士課程」「博士課程」「社会人学生」の別を明記してください。

※昨年度に提出された方も、再度ご提出ください。事務局で確認後、以前のものは既にシュレッダー裁断しています。

※学生証が 4 月中に発行されない場合は、その旨、事務局までご連絡ください。

■ 年会費口座振替ご利用の方へのお願い

2014 年度分（2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日）年会費の口座引き落とし日は 6 月 27 日（金）です。口座残高のご確認をお願いいたします。

年会費は正会員 9,000 円、学生会員 4,000 円です。

■ 変更届提出のお願い

就職、転職、所属や自宅の場所が変わった等々の場合、速やかに変更届をご提出ください。変更はオンラインで出来ます。

<https://www.gisa-japan.org/member/login.php>

■ 学会ホームページやメールニュースへの掲載ご希望の方へ

学会ではイベントや公募等のお知らせを、ホームページに掲載する他、個人会員向けメールニュースでも配信しています。学会ホームページのトップページでもご案内していますので、そちらを参照の上、事務局までお申込み下さい。現在、掲載料等は無料です。

<http://www.gisa-japan.org/news/request.html>

また、フェイスブックやツイッターでもご案内することができます。こちらはもう少し肩の力を抜いたものです。掲載ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

■ 会議の場所をご提供します

分科会（SIG）、委員会、支部など、学会活動に関することで会議をしたいが場所が無い…という方は、事務局までお申し出ください。事務局が入居している学会センタービルの地下に、貸会議室があります。予約制ですので、お早目にお問い合わせください。

料金：無料

時間：月曜日から金曜日の 10：00～17：00

注意：インターネットのご利用は出来ません

2014 年 2 月末現在の個人会員 1313 名、 賛助会員 66 社

賛助会員

(2口) NTT ウェブページ㈱
(1口) アクリック㈱、朝日航洋㈱、アジア航測㈱、いであ㈱、㈱インフォマティクス、ESRI ジャパン㈱、㈱NTTデータ数値システム、愛媛県土地家屋調査士会、応用技術㈱、大阪土地家屋調査士会、オートデスク㈱、㈱オオバ、㈱かんこう、関東甲信越東海GIS技術研究会、㈱岐阜県建設研究センター、九州GIS技術研究会、協同組合くびき野地理空間情報センター、近畿中部北陸GIS技術研究会、㈱こうそく、国際航業㈱、国土情報開発㈱、㈱古今書院、寿精版印刷㈱、GIS総合研究所いばらき、㈱GIS関西、ジェイアール西日本コンサルタンツ㈱、㈱JPS、㈱ジオテクノ関西、㈱ジオプラン、㈱昭文社、㈱ジンテック、㈱ゼンリン、㈱谷澤総合鑑定所、玉野総合コンサルタンツ㈱、中四国GIS技術研究会、テクノ富貴㈱、東北GIS技術研究会、㈱ドーン、内外エンジニアリング㈱、長野県GIS協会、にいがたGIS協議会、日本エヌ・ユー・エス㈱、日本コンピュータシステム㈱、日本情報経済社会推進協会、日本スーパーマップ㈱、㈱日本測量調査技術協会、日本土地家屋調査士会連合会、㈱日本地図センター、パンフィックコンサルタンツ㈱、㈱パスコ、東日本総合計画㈱、北海道GIS技術研究会、㈱マップクエスト、㈱松本コンサルタント、三井造船システム技研㈱、㈱三菱総合研究所、三菱電機㈱、ヤフー㈱、㈱リモート・センシング技術センター
自治体会員：(1口) 大阪府高槻市役所、大阪府豊中市役所、経済産業省特許庁、総務省統計局統計研修所、長野県環境保全研究所、福岡県直方市

学会分科会連絡先一覧

●自治体：青木和人（京都府宇治市） 事務局：浅野和仁（大阪府富田林市 Tel 0721-25-1000） E-mail: helicobacter_ysfh@hera.eonet.ne.jp ●ビジネス：高阪宏行（日本大学 Tel 03-3304-2051） E-mail: koksaka@chs.nihon-u.ac.jp ●防災GIS：畑山満則（京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333） E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp ●土地利用・地価GIS：碓井照子（奈良大学） 事務局：西端憲治（㈱セイコム Tel 0721-25-2728） E-mail: totiriyo-sig@seicom.jp	●時空間GIS：吉川耕司（大阪産業大学 Tel 072-875-3001） E-mail: yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp ●地図・空間表現：若林芳樹（首都大学東京 Tel 042-677-2601） E-mail: wakaba@tmu.ac.jp ●セキュリティSIG：川添博史（特定非営利活動法人GIS総合研究所） 事務局：国司輝夫（特定非営利活動法人GIS総合研究所 Tel 06-6464-7077） E-mail: info@gissoken.org ●FOSS4G分科会：Venkatesh Raghavan（大阪市立大学） 連絡先：嘉山陽一（朝日航洋㈱ TEL049-244-4032） E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp
--	---

地方支部の連絡先一覧

<北海道支部> 支部長：北海道大学 橋本 雄一 Tel : 011-706-4019, E-mail : you@let.hokudai.ac.jp <東北支部> 支部長：岩手県立大学 阿部 昭博 Tel : 019-694-2562, E-mail : abe@iwate-pu.ac.jp <北陸支部> 支部長：新潟大学 牧野 秀夫 Tel : 025-262-6749, E-mail : makino@ie.niigata-u.ac.jp <中部支部> 支部長：名古屋大学 奥 貴 圭一 Tel : 052-789-2233, E-mail : nuki@lit.nagoya-u.ac.jp <関西支部> 支部長：大阪工業大学 吉川 眞 連絡先：田中 一成（大阪工業大学） Tel : 06-6954-4293, E-mail : gisa@civil.oit.ac.jp	<中国支部> 支部長：広島工業大学 岩井 哲 Tel : 082-921-5486, E-mail : s.iwai.i5@it-hiroshima.ac.jp <四国支部> 支部長：香川大学 野々村 敦子 Tel : 087-864-2146, E-mail : nonomura@eng.kagawa-u.ac.jp <九州支部> 支部長：九州大学 三谷 泰浩 Tel : 092-802-3399, E-mail : gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp <沖縄支部> 支部長：琉球大学 宮城 隼夫 E-mail : miyagi@ie.u-ryukyu.ac.jp 連絡先：有銘 政秀（(株) ジャスミンソフト） Tel : 098-921-1588, E-mail : arime@jasminesoft.co.jp
--	---

■ 編集後記 ■

第 89 号ニューズレターでは、台風 27 号接近により第 22 回学術研究発表大会が中止となったため、開催されませんでした Web 大会優秀発表者名、同優秀ポスター発表賞名を掲載しています。

昨年の研究発表大会では、自治体分科会でも、地方自治体職員さんを中心にした特別セッションを行う予定をしておりましたが、大会中止となり、ぽっかりと穴が開いたような心境でした。なんらかの発表機会を求めているところ、本ニューズレターでご報告させていただいておりますように、GISCA 特別シンポジウムにて、自治体セッション「オープンデータと自治体 GIS」として、行わせていただきました。

（青木和人（宇治市・立命館大学））

地理情報システム学会ニューズレター

第 89 号 ●発行日 2014 年 3 月 25 日

■発行

一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org
URL: <http://www.gisa-japan.org/>

■ 弥生雑記 ■

注文するとビール瓶の口にくし形に切ったライムが挿してある状態で供され、そのライムを瓶の中に落とし込んでラッパ飲みをする…のが日本でのコロナビールの飲み方。

ところがメキシコを訪れてビールを注文する際（豊富な種類のビールを誇る国なのでコロナとは限らなかったが）に周囲を観察したが、皆、普通に瓶からグラスに注いで飲む。上述の方法がメキシコ流だと思っていたから不思議に思い、メキシコ人に尋ねると「そんな飲み方、見たこと無い。それに、出されたライムが清潔だって、どうして素直に信じるわけ？」…テキーラを飲むときにもライムは果肉だけ齧り、皮は口にしないよう注意を受けていたことを思い出し、何となく納得はした。が、地球の裏側の日本に達するまでに、一体どういう経緯があって、ライムを瓶に押し込む飲み方になってしまったのやら…

人生は出会いの面白さ、だと思ふ。出会いとは人や知識や、こんなちょっとした不思議も。間もなく新年度。様々な出会いが、そして出来れば良い出会いがありますように。（学会事務局）